

## 第8回「日本医師会 赤ひげ大賞」

(順列は北から：敬称略)

### 「赤ひげ大賞」受賞者

#### ■岩手県医師会推薦 <sup>きざわ</sup> <sup>けんいち</sup> 木澤 健一 医師 91歳 木沢医院 院長



地域唯一の診療所を開設し、昭和38年から56年間にわたって地域住民の健康管理に貢献。地域の学校医としても64年間、現在に至るまで児童生徒の健康管理に多大な尽力をしている。東日本大震災では自宅、診療所も津波に飲み込まれ、診療所1階の天井まで浸水する大規模半壊の被害にあうものの、2階部分を活かし診療を続けるなど、寸暇を惜しんで患者の診療に当たった。現在も、地域の人々に寄り添い、地域の復興と医療の再生に力を注いでいる。

#### ■群馬県医師会推薦 <sup>うちだ</sup> <sup>よしじ</sup> 内田 好司 医師 83歳 内田病院 顧問



将来の高齢化を見据え、地域で医療・介護を一体的に対応できる医療機関づくりをめざし、昭和63年に内田病院と県内初の認知症専門棟を有する老人保健施設を開設した。身体抑制廃止を宣言し、縛らない医療・看護を実践。全国への普及活動にも力を入れている。また、認知症高齢者の行方不明事故を未然に防止し、地域で見守るシステムとして「沼田市認知症にやさしい地域づくりネットワーク」を設立するなど、官民一体連携の全国的な先進事例をつくった。

#### ■鳥取県医師会推薦 <sup>ゆかわ</sup> <sup>きみ</sup> 湯川 喜美 医師 83歳 湯川医院 院長



「病気を見る医者より、病人を診る医者になれ」を座右の銘とし、患者の訴えに耳を傾ける姿勢を貫き、開業医として地域医療の最先端で活動している。女性医師が少ない時代には心ないことを言う患者もいる中で、女性であることの特性を活かし、患者へのきめ細やかな愛情を注いだ。患者は超高齢者も多く、在宅・往診に加えて看取りなどにも携わっている。今でも、積雪の多い冬季には自身の運転で患者宅まで駆けつけるなど、患者家族に寄り添いながら診療を続けている。

#### ■広島県医師会推薦 <sup>ときや</sup> <sup>りゅうぞう</sup> ときや 龍三 医師 61歳 ときや内科 理事長



28年間、瀬戸内地域の島民のかかりつけ医として、24時間365日診療を続けるだけでなく、最期は島で迎えたいとの島民の要望に応じて在宅診療にも取り組む傍ら、多職種との勉強会の他、在宅で最期を看取った患者家族も参加する町民向けシンポジウムも頻繁に開催するなど、在宅医療を推進している。離島の医療は天候に影響され、救急医療は極めて困難を要するが、昼夜問わず救急患者を受け入れられるように医療機器を率先して導入するなど、その体制整備にも尽力している。

#### ■鹿児島県医師会推薦 <sup>ふるえ</sup> <sup>ますぞう</sup> 古江 増蔵 医師 98歳 医療法人・社会福祉法人桃蹊会 理事長



70年余りにわたり、医療・福祉の充実を目指し、患者に寄り添った地域医療に献身的に尽力し、地域に密着した「かかりつけ医」として98歳の今でも現役で活躍している。95歳までは自ら車を運転し、訪問診療も実施してきた。また、65年もの間、学校医として児童生徒の健康増進・疾病予防に精力的に取り組むとともに、医療と福祉のスムーズな連携の必要性から、障害者支援施設や特別養護老人ホーム等を開設し、地域住民や家族に大きな安心感と喜びをもたらしている。

### 「赤ひげ功労賞」受賞者

ますこ せいいち (北海道)  
やまだ しげる (千葉県)  
やまぐち いさむ (愛知県)  
きたうら のぶこ (奈良県)  
はしもと のぶお (福岡県)

さかい たけあき (宮城県)  
まえだ りつお (東京都)  
こまだ としゆき (三重県)  
よこや ゆきひろ (和歌山県)  
なかむら よしきよ (沖縄県)

こぼやし とおる (山形県)  
あまの たかぞう (山梨県)  
かわむら はるお (京都府)  
かさまつ ゆか (徳島県)

あかまつ いくお (栃木県)  
さくらだ おきむ (静岡県)  
たつみ のぶお (大阪府)  
おおもり しげる (香川県)

年齢は2020年1月8日現在

## 「日本医師会 赤ひげ大賞」について

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、公益社団法人日本医師会と産経新聞社が主催となり「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当てて顕彰すること」を目的として、平成24年に創設したものである。

【後援】厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ

【特別協賛】太陽生命保険株式会社

### 【対象者】

病を診るだけでなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会の会員及び都道府県医師会の会員で現役の医師（ただし、現職の日医・都道府県医師会役員は除く）。

### 【推薦方法】

各都道府県医師会会長が1名を推薦

## 選考委員

羽毛田信吾（昭和館館長、宮内庁参与）  
向井千秋（宇宙航空研究開発機構特別参与、東京理科大学特任副学長）  
檀ふみ（女優）  
ロバート・キャンベル（国文学研究資料館館長）  
河合雅司（作家・人口減少対策総合研究所理事長）  
吉田学（厚生労働省医政局長）  
小玉弘之（日本医師会常任理事）  
城守国斗（日本医師会常任理事）  
鈴木裕一（産経新聞社上席執行役員）  
乾 正人（産経新聞社執行役員論説委員長）

（敬称略）

### 【表彰式・レセプション】

令和2年3月13日（金）パレスホテル 東京

表彰式：午後5時～ 2階「葵 東」

レセプション：午後6時～ 2階「葵 西」